



平成30年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年10月24日

上場会社名 株式会社両毛システムズ

上場取引所 東

コード番号 9691

URL <http://www.ryomo.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 秋山 力

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 (氏名) 上山 和則 (TEL) 0277 - 53 - 3131

四半期報告書提出予定日 平成29年11月8日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績 (平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	5,920	0.6	78	32.7	96	24.4	63	32.4
29年3月期第2四半期	5,885	1.9	59	△56.4	77	△48.3	48	△46.2

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 91百万円(101.8%) 29年3月期第2四半期 45百万円(△22.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	18.20	—
29年3月期第2四半期	13.75	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	12,718	7,285	57.3
29年3月期	12,717	7,257	57.1

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 7,285百万円 29年3月期 7,257百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	18.00	18.00
30年3月期	—	0.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	18.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想 (平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,600	1.1	650	4.6	680	3.1	445	2.7	127.18

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

30年3月期2Q	3,510,000株	29年3月期	3,510,000株
----------	------------	--------	------------

② 期末自己株式数

30年3月期2Q	11,035株	29年3月期	11,035株
----------	---------	--------	---------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

30年3月期2Q	3,498,965株	29年3月期2Q	3,498,965株
----------	------------	----------	------------

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、為替相場が比較的安定、株価は緩やかに上昇するなか、企業収益は引き続き改善、設備投資も持ち直しの動きを続けるなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する事項もありますが、企業収益の改善や設備投資の持ち直し等により、景気は引き続き回復基調が続くものと見受けられます。

情報サービス産業におきましては、地方自治体では、法改正に伴うシステム改修、自治体情報セキュリティ対策の抜本的強化への取組み等、商談環境は堅調に推移しました。また、企業収益の改善等により設備投資が持ち直しをするなか、自動車の電子制御が一層高度化（スマート化）することによる組込ソフトウェアの需要拡大、製造業において、課題解決や価値創造のためのI o T^{*1}の利活用による生産工場のスマート化、電力や都市ガス等、エネルギーの小売り自由化によるシステム導入の動きなど、進化を続けるICT技術の提案により、民間分野においても商談環境は堅調に推移しました。

※1 I o T (Internet of Things) : 様々なモノがインターネットでつながり、情報をやり取りする仕組み (モノのインターネット)

このような状況のなか、当社及び連結子会社（以下、当社グループ）では、公共分野及び、民間分野とも引き続き受注拡大、収益構造の改善ならびに、製品・サービス強化に取り組んでまいりました。ソフトウェア開発・システム販売分野ならびにデータセンター分野が堅調に推移したこと等により、第2四半期連結累計期間においては、前年同期比増収増益となりました。製品・サービス強化の面においては、平成29年9月25日にお知らせのとおり、自治体向け住民窓口支援サービス「窓口コンシェルジュ」の本格提供を開始いたしました。また、社会貢献の一環として、B P O^{*2}分野において秩父広域市町村圏組合水道局様をはじめとした水道事業者様との共同訓練を実施いたしました。共同訓練においては、当社が各地方自治体様と締結している災害協定の一環として装備した、給水車を用いた給水訓練等を行いました。

※2 B P O (Business Process Outsourcing) : 業務プロセスの一部を外部企業に委託すること

その結果、平成29年10月23日の業績予想の修正に関するお知らせのとおり、売上高は5,920百万円（前年同期比0.6%増）、営業利益は78百万円（前年同期比32.7%増）、経常利益は96百万円（前年同期比24.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は63百万円（前年同期比32.4%増）となりました。平成29年10月23日に開示した業績予想の修正に関するお知らせは、以下のとおりです。

【参考】

当第2四半期連結累計期間

(%表示は、第2四半期業績予想に対する増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
第2四半期累計実績	5,920	7.6	78	57.1	96	35.5	63	44.7
第2四半期業績予想	5,500	—	50	—	71	—	44	—

セグメントごとの業績は、以下のとおりです。

(公共事業セグメント)

公共事業セグメントは、競争入札の浸透による低価格化が進み、競争環境は厳しさが増しているなか、臨時給付金等法改正に関するシステム対応や自治体向けセキュリティ商談、自治体向け「G. B e _ U (ジービーユー)」（総合行政ソリューション）や戸籍情報総合システム等が堅調に推移しました。システム機器・プロダクト関連販売分野では反動減により、計画比増となりましたが、前年同期比では減少となりました。

その結果、売上高は2,449百万円（前年同期比16.2%減）、セグメント利益は162百万円（前年同期比37.6%減）となりました。

(社会・産業事業セグメント)

社会・産業事業セグメントは、ソフトウェア開発・システム販売分野及び、システム機器・プロダクト関連販売分野が伸長しました。具体的には車載系組込ソフトウェア開発支援業務が引き続き伸長したことに加えて、エネルギー市場の規制緩和による都市ガス自由化対応商談、ガス事業者向け「G I O S (ジーオス)」等が堅調に推移しました。また、機器販売も伸長しました。

その結果、堅調な商談環境に加えて、売上計上時期の前倒し等により計画比増で推移したこともあり、売上高は3,471百万円（前年同期比17.2%増）、セグメント利益は552百万円（前年同期比67.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態に関する分析

(資産・負債・純資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は12,718百万円(前連結会計年度末12,717百万円)となり、前連結会計年度末とほぼ同額となりました。流動資産は8,299百万円となり293百万円減少し、固定資産は4,419百万円となり293百万円増加しました。

流動資産の減少要因は、現金及び預金が525百万円、たな卸資産が358百万円それぞれ増加しましたが、受取手形及び売掛金が1,310百万円減少したこと等によるものです。固定資産の増加要因は、有形固定資産が136百万円、ソフトウェアが95百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は5,432百万円(前連結会計年度末5,459百万円)となり、27百万円減少しました。流動負債は3,767百万円となり58百万円減少し、固定負債は1,665百万円となり31百万円増加しました。

流動負債の減少要因は、その他(主に前受金)が687百万円増加しましたが、買掛金が500百万円、短期借入金が200百万円それぞれ減少したこと等によるものです。固定負債の増加要因は、リース債務が50百万円増加したこと等によるものです。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は7,285百万円(前連結会計年度末7,257百万円)となり、28百万円増加しました。これは主に、その他有価証券評価差額金が23百万円増加したこと等によるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ526百万円増加し1,980百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、1,112百万円(前年同期は199百万円)となりました。この主な要因は、たな卸資産の増加額358百万円、仕入債務の減少額329百万円の資金の減少はありましたが、売上債権の減少額1,259百万円の資金の増加があったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、260百万円(前年同期は455百万円)となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得による支出118百万円、無形固定資産の取得による支出120百万円の資金の減少があったこと等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、326百万円(前年同期は41百万円の収入)となりました。この主な要因は、短期借入金の減少額200百万円の資金の減少があったこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の経済見通しについては、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する事項もありますが、企業収益の改善や設備投資の持ち直し等により、景気は引き続き回復基調が続くものと見受けられます。

情報サービス産業においても、自動車業界の組込ソフトウェアへの需要、エネルギー規制緩和によるシステム導入、地方自治体市場におけるセキュリティビジネスの拡大など、堅調な商談環境が継続するものと見受けられます。

当社においては、第2四半期連結累計期間では、平成29年5月9日に開示した業績予想を上回ることができました。今後もさらなる受注拡大や収益構造の改善ならびに、製品・サービスの強化に向けて取り組んでまいります。また、平成29年5月26日に公表いたしました決算説明会資料のとおり、「RSビジョン2025」実現に向け、成長戦略をさらに進めてまいります。

以上のことから、当社グループの通期の連結業績予想につきましては、平成29年10月23日に開示した内容は、現時点で修正はありません。

なお、上記連結業績予想は現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいておりますが、予想に内在する不確定要素や今後の事業運営における内外状況の変化により、実際の業績数値が予想の数値と異なる場合がありますことをご承知おきください。

【参考】

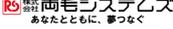
平成30年3月期の連結業績予想（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	13,600	1.1	650	4.6	680	3.1	445	2.7	127.18

【参考 当社グループビジョン】

RSビジョン2025



3つのRS Creatingにより
真の情報サービス企業となる
— 「データ処理」 から 「情報創造」 へ —

変革へのキーワード

RS's Technology : 独創

RS's New value : 新創

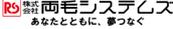
RS's Relation : 共創



Copyright © 2017 Ryomo Systems, Ltd. All rights reserved

【参考 当社グループ経営方針】

8次中期経営方針



【8次中期経営方針】

更なる成長を遂げる為に、『新価値創造』と
『強みを活かした既存事業の拡大』を実現する

挑戦・成長	構造改革	人材育成
<ul style="list-style-type: none"> ■ 新分野へ挑戦し、新価値を創造する <ul style="list-style-type: none"> ・新価値創造による成長 ・新技術の研究（シーズの発掘） ■ 強みを活かした既存事業の拡大をする 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 体質を改善する <ul style="list-style-type: none"> ・標準化による品質及び生産性の向上 ・シナジーを発揮できる体制・組織 ・収益の安定化 ・プロジェクトガバナンスの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人と技術を磨く <ul style="list-style-type: none"> ・高度な専門性 ・ビジョン経営の浸透 ・一人ひとりの成長とチームワーク

Copyright © 2017 Ryomo Systems, Ltd. All rights reserved

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,114,563	1,640,334
受取手形及び売掛金	3,430,094	2,119,194
リース投資資産	1,713,570	1,798,436
たな卸資産	958,884	1,317,091
その他	1,375,242	1,424,197
貸倒引当金	△285	△198
流動資産合計	8,592,070	8,299,055
固定資産		
有形固定資産	1,235,782	1,372,556
無形固定資産		
ソフトウェア	574,962	670,773
ソフトウェア仮勘定	174,059	166,523
その他	233,756	212,404
無形固定資産合計	982,779	1,049,701
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	1,179,870	1,219,507
その他	726,781	777,424
貸倒引当金	△4	△3
投資その他の資産合計	1,906,647	1,996,928
固定資産合計	4,125,208	4,419,187
資産合計	12,717,279	12,718,243
負債の部		
流動負債		
買掛金	910,380	409,564
短期借入金	550,000	350,000
未払法人税等	134,180	49,928
賞与引当金	550,188	577,704
役員賞与引当金	8,984	12,982
受注損失引当金	434,904	442,414
その他	1,237,604	1,924,730
流動負債合計	3,826,244	3,767,324
固定負債		
リース債務	1,394,038	1,444,191
その他	239,409	220,925
固定負債合計	1,633,447	1,665,117
負債合計	5,459,691	5,432,441

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,966,900	1,966,900
資本剰余金	2,453,650	2,453,650
利益剰余金	2,697,340	2,698,044
自己株式	△8,513	△8,513
株主資本合計	7,109,377	7,110,081
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	52,422	76,131
退職給付に係る調整累計額	95,786	99,588
その他の包括利益累計額合計	148,209	175,720
純資産合計	7,257,587	7,285,801
負債純資産合計	12,717,279	12,718,243

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	5,885,542	5,920,303
売上原価	4,922,747	4,833,104
売上総利益	962,794	1,087,199
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	359,464	371,905
賞与引当金繰入額	124,842	128,832
役員賞与引当金繰入額	5,585	17,259
退職給付費用	19,807	17,955
その他	393,907	472,709
販売費及び一般管理費合計	903,607	1,008,663
営業利益	59,186	78,536
営業外収益		
受取利息	3,306	2,154
受取配当金	5,272	5,052
有価証券売却益	1,169	-
受取賃貸料	3,544	3,877
転リース差益	9,020	8,599
その他	2,830	2,450
営業外収益合計	25,144	22,135
営業外費用		
支払利息	4,324	3,617
賃貸収入原価	552	545
その他	2,124	280
営業外費用合計	7,002	4,443
経常利益	77,329	96,229
特別損失		
固定資産除却損	19	0
特別損失合計	19	0
税金等調整前四半期純利益	77,309	96,229
法人税等	29,211	32,544
四半期純利益	48,097	63,684
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	48,097	63,684

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	48,097	63,684
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10,494	23,709
退職給付に係る調整額	7,582	3,801
その他の包括利益合計	△2,911	27,510
四半期包括利益	45,186	91,195
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	45,186	91,195
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	77,309	96,229
減価償却費	103,547	124,440
無形固定資産償却費	111,060	154,945
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△23,981	△34,170
賞与引当金の増減額(△は減少)	12,990	27,515
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	1,683	3,997
受注損失引当金の増減額(△は減少)	328,540	7,510
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△16	△87
受取利息及び受取配当金	△8,579	△7,207
有価証券売却損益(△は益)	△1,169	-
支払利息	4,324	3,617
固定資産除却損	19	0
売上債権の増減額(△は増加)	127,567	1,259,664
たな卸資産の増減額(△は増加)	△508,040	△358,207
その他の流動資産の増減額(△は増加)	203,905	△80,791
仕入債務の増減額(△は減少)	132,526	△329,927
未払費用の増減額(△は減少)	6,674	10,942
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△135,345	288,936
その他の固定負債の増減額(△は減少)	△193,393	33,131
小計	239,622	1,200,538
利息及び配当金の受取額	8,604	7,173
利息の支払額	△4,239	△3,584
法人税等の支払額	△44,256	△91,400
営業活動によるキャッシュ・フロー	199,730	1,112,727
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△170,000	△170,000
定期預金の払戻による収入	170,000	170,000
投資有価証券の取得による支出	△5,924	△122
投資有価証券の売却による収入	9,700	-
投資その他の資産の増減額(△は増加)	△18,962	△21,800
有形固定資産の取得による支出	△72,799	△118,265
無形固定資産の取得による支出	△367,317	△120,349
投資活動によるキャッシュ・フロー	△455,302	△260,538
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	130,000	△200,000
長期借入金の返済による支出	△50,000	-
リース債務の返済による支出	△70,734	△63,188
セール・アンド・リースバックによる収入	91,827	-
配当金の支払額	△59,751	△62,943
財務活動によるキャッシュ・フロー	41,341	△326,132
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△214,230	526,056
現金及び現金同等物の期首残高	1,701,693	1,454,741
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,487,463	1,980,798

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	公共事業	社会・産業事業			
売上高					
外部顧客への売上高	2,923,347	2,962,194	5,885,542	—	5,885,542
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,923,347	2,962,194	5,885,542	—	5,885,542
セグメント利益	259,573	331,030	590,603	△531,417	59,186

(注) 1. セグメント利益の調整額△531,417千円には、各報告セグメントに配分していない製造補助部門費△76,151千円及び全社費用△455,265千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	公共事業	社会・産業事業			
売上高					
外部顧客への売上高	2,449,291	3,471,012	5,920,303	—	5,920,303
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,449,291	3,471,012	5,920,303	—	5,920,303
セグメント利益	162,042	552,903	714,946	△636,409	78,536

(注) 1. セグメント利益の調整額△636,409千円には、各報告セグメントに配分していない製造補助部門費△78,400千円及び全社費用△558,009千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。